

書名 項目	『 音楽のおくりもの 』 17 教出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ユニット(題材)を領域・分野ごとに構成し、学校の実態や生徒の発達段階に応じて多様な構成が工夫でき、主要教材の学びを基盤に、比べよう深めてみようの活用でより確かな知識や技能が身につけられる。 ○キャラクターによるヒントや補足説明の吹き出しにより、「知識・技能」に関する内容を「思考力・判断力・表現力」の育成と関わらせて習得できるよう工夫されている。 ○鑑賞教材では「比べてみよう」で比較鑑賞することで確かな学びにつながる工夫がされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌唱教材では構造を理解し、表現を工夫したり、観賞教材では聴き取ったり気づいた事を書き込んだりするスペースがあり、「話し合おう」によって協働的な活動につながられる。 ○創作では3年間の系統性や発展性をふまえた内容が工夫されており、「let's try!」の学習と関わらせることで学習の充実を図れるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びのユニット」により、ねらいと学習する曲や活動、学習を生かして比べる曲が示されており、見通しをもって主体的に学ぶ工夫がされている。 ○「話し合おう」で自分の考えや感じ取った曲想や音楽の構造との関わりなどをまとめ、交流しながら主体的な学びに向かうよう設定されている。 <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌唱教材は、編成や合唱形態、音楽の構造と旋律のまとめ、形式に関わるフレーズの取り扱いが、発達段階に合わせて配置されており、基礎的・基本的な技能を身につけるための工夫がみられる。 ○創作教材「音のスケッチ」では、学習内容と具体の活動をわかりやすく示し、リズムや旋律づくり、音を音楽へと構成する楽しさを体験できる工夫がされている。 <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「私たちのくらしと音楽」で音楽と社会との関わりや音楽の持つ力について考えるページを設けている。 ○音楽文化の理解を深めるため、鑑賞と表現活動を関連付けたり、音楽の共有性と固有性を比べたりしながら音楽の多様性に気付かせる書き込み欄を設けている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭の口絵では、歌唱教材の歌詞の内容や背景、作詞者・作曲者の思いや意図を伝えている「A Message for you」が掲載され、意欲を高める工夫がされている。 ○QRコードが掲載されている教材では、内容にリンクした動画、音声、ワークシート学習をサポートするコンテンツを閲覧することができ、自主的に学習する際に活用できる工夫がされている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まなびリンク」マークを設定し、動画や音源、解説資料などを関連させて学習活動に対して意欲が高まる工夫がされている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習目標、学習活動、音楽を形づくっている要素が各教材で設定し、見開きで示されており、一目でわかるようになっている。 ○ユニバーサルデザインを取り入れ、判読しやすい配色、レイアウト、文字の使用等に配慮している。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞教材の学習資料「巻末」はワイドなビジュアル図鑑となっている。 ○楽典のページを巻末の折り込みページで示し、これを参照しながら学習を進めることができる工夫をしている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の興味関心を高め、主体的・協働的に学ぶことができるよう教材の配列を工夫し、学習内容の関連を図り、「学びのユニット」として示されている。 ○「知識」と関わって「曲想と音楽の構造との関わり」が明確になるように、「ACTIVE!」を設定し、学習内容と具体的な活動例が示されている。

音楽科調査資料 (一般)

作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: right;">27</p> <p style="text-align: center;">『 中学生の音楽 』</p> <p style="text-align: right;">教芸</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習指導要領の内容及び楽曲の特性に即して、ねらいを設定した教材が適切に配列され、題材の関連を図りながら系統的・発展的に学べるようになっている。 ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて知覚・感受を促す吹き出し等の工夫により、学習目標と学習活動の関連を理解しながら学習を進められる。 ○鑑賞教材では、背景となる文化や歴史、他の芸術との関連について理解を深めるための資料等が工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「深めよう音楽」では、ポイントとなる要素を知覚・感受し、具体例を示すなどして思考・判断・表現につながる流れとなっている。 ○歌唱教材では、歌詞や楽曲の内容が生徒の心情的な発達段階に沿っており、また、合唱の編成やパートの音域についても学年による発達段階を考慮している。また、「My Voice!」のページでは基礎的な内容が確認できるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○年間の学びを見渡せる「学びの地図」により、それぞれの教材で何を学ぶかが見て取れ、見通しを持ち、主体的に学ぶことができる。 ○我が国や郷土の伝統音楽の唱歌や伝統的な歌唱、「指揮をしてみよう!」での鑑賞曲を聴きながらの指揮活動の体験活動を取り入れ、実感を伴って理解できる工夫がされている。 <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○歌唱教材では、歌詞や楽曲の内容が生徒の心情的な発達段階に沿っており、また、合唱の編成やパートの音域についても学年による発達段階を考慮し、無理なく音楽活動が楽しめる工夫がされている。 ○創作教材「My Melody」では、明確な課題に沿って、創作への手順が丁寧に示されており、自らが思い描いた音楽の創造につなげることができる。 <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「生活や社会の中の音楽」では、学年に応じたテーマを設け、音や音楽が生活や社会、文化とどのように関わり、学んだことの意味や価値などに生徒が意識的に考えられるページが新設されている。 ○我が国や郷土の伝統音楽について、系統性をもって学習できるように配列され、自国の文化を尊重する態度を育むことや、多彩なジャンルの作品を紹介し、様々な音楽と出会い、生涯にわたり音楽文化に親しむ配慮がされている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○様々なジャンルのプロフェッショナルのメッセージがあり、音楽への興味や意欲を高める工夫がなされている。 ○QRコードが掲載されている教材では、学習をサポートするコンテンツを閲覧することができる。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習をサポートするコンテンツが示されており、指導の参考教材が紙面上の二次元コードを読み取ることによってICT機器で閲覧できる。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習目標、学習活動、音楽を形づくっている要素が各教材で設定され、見開きで示されており、一目でわかるようになっている。 ○歌唱教材のページでは、情景や歌詞の内容を想起させるような写真が用いられており、イメージしやすい工夫がなされている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞教材では聴き取らせたい部分がわかるよう、楽譜が掲載されており、ポイントがわかりやすい提示となっている。 ○各教材に関連する用語や記号が該当ページに示され、巻末には「音楽の約束」として楽典事項が掲載されている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「つながる」をキーワードとし、音楽活動を通して生徒同士、生徒と社会、学びと学びがつながることを意識し、自ら考える力を引き出す工夫がされている。 ○1年間の学習の見通しをもつ「学びの地図」、学習を振り返る「音楽を形づくっている要素」「曲のよさをプレゼンしよう」のページにより主体的に学習に臨む工夫がされている。

書名 項目	『 音楽のおくりもの 』 17 [教出]
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「音のスケッチ」コラムで創作活動との関連や、合奏への発展的な教材が提示されており、表現と創作を無理なくつなげたり、表現を深めたりするための工夫がされている。 ○前半に「演奏の仕方を身につけよう」で基本的な知識や技能をまとめ、後半は「合わせて演奏しよう」「名曲旋律集」で習得した知識・技能を活用して学びが深められるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「何が同じで何が違う」コラムを管楽器と弦楽器で設け、共通性や固有性を考え、特徴を理解することができるよう書き込みの欄が設けられており、話し合う場面も設定されている。 ○楽器特有の音色や奏法等を比較し、特徴を理解することができるよう配慮がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○リコーダー・篠笛・尺八という管楽器、ギター・箏・三味線という弦楽器、打楽器と楽器の構造に依った扱い順になっており、我が国や諸外国の文化の理解を意図した教材の提示に工夫がされている。 ○多様な楽器の組み合わせによるアンサンブル活動が掲載されており、他者と協働して表現を工夫する活動の充実が図れる。 <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ギターのタブ譜を取り上げ、五線譜と併記することで読譜しやすい配慮がされ、リコーダー譜の欄外にフィンガリングを掲載し、進んで学び合う活動が進められる工夫がされている。 ○巻末に各楽器の特色を生かした代表的な曲と生徒にも親しみやすいアンサンブル譜を多く取り上げ、聴いて合わせる活動から音楽活動への意欲を高める工夫がされている。 <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○管楽器、弦楽器、打楽器と楽器の構造に依った扱い順になっており、共通性や固有性を考えることで音楽文化の理解を深める学習へとつなげることができる。 ○和楽器を扱う教材には口唱歌(唱歌)を表記したページが新設され、音楽文化の理解を深めている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各楽器のフォームや奏法はカラーを多く使い、楽しく練習に入れるよう、後半のアンサンブル譜はカラーを抑えて楽譜に集中できるよう工夫が感じられる。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「まなびリンク」としてQRコードを載せ、ウェブサイトとリンクして各楽器・楽曲の資料や参考音源を確かめられる配慮がされている。 ○巻末に四声部のリコーダー運指表、ギターとキーボードのコード表を簡潔にまとめて掲載しており、主体的に学習を進めたり、発展的な学習に取り組んだりすることができる。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学期の構造や各部の名称が、写真や図、イラストで示され、複数の角度からの写真により、楽器の構え方や奏法がわかりやすくなっている。 ○ユニバーサルデザインを取り入れ、判読しやすい配色、レイアウト、文字の使用等に配慮している。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた解説調の文章で統一されており、わかりやすい指示や解説で、学習上必要な情報に注目することができるシンプルなデザインとなっている。 ○巻末に「いろいろな用語、記号」で用語や記号等の楽典事項が掲載されており、主体的に学習を進めることができる工夫がされている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材曲のジャンルが多岐に渡り、アンサンブル曲を多く紹介することで聴いて合わせる活動を充実させることができる。 ○器楽教材は、歌唱、創作、鑑賞の各活動と関連させながら、生徒や学校の実態を踏まえて取り扱うことができる工夫がされている。

書名 項目	『 中学生の器楽 』 27 教芸
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○曲想と音楽の構造などのかかわりについての気づきや理解を促す内容のコラム、「Q&A」等が適切に配置され、学習目標や学習活動と結びつきやすくなっている。 ○創意工夫を活かした表現に必要な技能を身に付けるため、巻頭に「アンサンブルセミナー」を配列し、それぞれの曲に「深めよう音楽」として、奏法や曲の構成など学習の深めるための教材が設定されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○箏の学習の最後に創作教材を取り入れ、思考力を高める配慮がされている。 ○和楽器の表現をより深めるために唱歌の活動を取り入れ、実感を伴った深い学びにつなげる工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○アンサンブル教材が豊富で、学習した内容を活かしながら表現を深めたり、音楽に親しんだりすることができる。 ○演奏家のメッセージや同世代の和楽器の演奏写真、「バンドの世界をのぞいてみよう」等生徒の関心・意欲を高めながら、音楽の意味や価値について生徒が意識的に考えるページが設定されている。 <p><音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○箏の縦譜、三味線の文化譜、ギターのコードフォームやダイアグラムなど、五線譜と組み合わせることで各楽器の演奏を平易に、かつ深められるよう譜面が併記されている。 ○和楽器の扱いが丁寧で、奏法などについては適切な文章とイラスト、写真により、楽器の基礎的な技能の習得に配慮されている。 <p><生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末の資料で、同世代の中学生による和楽器の演奏写真が掲載されており、和楽器が一層身近なものとして捉えることができるよう工夫されている。 ○バンドのスコア譜や、ギターとキーボードに対応したコード表を取り上げ、生涯にわたり音楽文化に親しむ態度を育成する工夫がされている。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末にギターとキーボードのコード表を併記しており、演奏してみたい楽曲を自主的に練習する際に活用できる。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導要領に示された3つの資質・能力に対応する学習内容・教材を示した「学びの地図」を載せることで、それぞれの関係や系統性が目で見えてわかるようにしている。 ○QRコードが載っていて、学習をサポートするコンテンツをICT機器で閲覧でき、器楽のパート別練習等が想定されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○写真の大きさ、数やアングルなどに配慮が行き届いており、直接見て理解ができるよう工夫がされている。 ○「Q&A」「工夫しよう」「こぼれ話」などコラム風のワンポイントアドバイスがとてもよく工夫されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習者の意欲を喚起するような、呼びかけ口調で文章が統一されており、学習に必要な情報が精査されている。 ○楽譜の大きさや文字のフォントが見やすく、書き込み等への配慮が感じられる。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材曲が精選されており、アンサンブル曲も多く紹介され、聴きながら他者と合わせて演奏する技能や、アンサンブル活動の楽しさを体験させるよう配慮されている。 ○打楽器のセグションが充実しており、基礎的な奏法のみでなく諸外国の民族音楽を取り上げ、諸外国の音楽文化に対する理解が深められるよう配慮されている。

美術科調査資料

書名	『 美術1 発見と創造 』	9
項目	『 美術2・3 探求と継承 』	開隆堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の目標を「学習のポイント」としてわかりやすく示している。 ○QRコードを読み取ることで、技法を解説した動画を視聴できるようになっている。 ○巻末には、「学びの資料」として技法がまとめられ、実際に使う手順なども写真でわかりやすく示されている。 ○美術用語の解説では、制作を通して身につけた知識を確認することができる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○デザイナー・佐藤オオキさんへのインタビューを通して、発想のポイントや考え方などを示すなど、思考、判断、表現のプロセスをわかりやすく紹介している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体の表記がわかりやすく整理されており、本時の学習で「何を学ぶのか」が明確になるようなレイアウトとなっている。 ○教科書上の情報は最小限に抑えられており、紙面はすっきりとした印象である。生徒が授業の中で、教師や級友とのやりとりを通して自分の考えやイメージを広げていくことができる部分が残されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自画像のコーナーでは、作品とそれを描いた作者の白黒写真が並べられており、生徒が表現する上で、これまでにない資料となっている。 ○鋭い観察から生まれた作品（伊藤若沖）や、戦争への批判から生まれた作品（ピカソ）、東日本大震災の体験から生まれた作品（池田学）は、見開きのページに記載され、その制作までの過程を通して、美術の根源的テーマに触れられるような工夫が見られる。 	
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の教科書冒頭の「学びの地図」では、これから学ぶ内容の関連性をわかりやすく示しており、表現や鑑賞への意欲、わくわく感を高めている。 ○2・3年生の教科書では、将来、美術の分野が生活の中で何らかの役に立つという捉え方を示しており、発達段階をふまえた適切な資料である。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○美術ならではの用語解説や、国宝、重文のマーク、作者の言葉、学習の目標、ポイントなどがさりげない表記、色で行われており、学習の流れ、思考を妨げない。 ○表現に役立つ資料が巻末に用意されている。 また、他教科との関連や既習内容についても適切に示されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報量を絞り、全体的にすっきりとしたレイアウトとなっている。資料の重なりも少なく他社と比べて最も見やすい紙面となっている。 ○生徒作品も見やすく、大切に扱われている印象である。 	
表記・表現	<p>全体的に多様な生徒への配慮が感じられる教科書である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学校以上で習う漢字は総ルビがふってある。 ○文書が意味のまとまりごとに改行されており、3社中最もわかりやすい。 ○ユニバーサルフォントを使用し、すっきりと読みやすい紙面になっている。 ○すべての作品に番号があり、指示された作品がすぐにわかる。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○全体的にすっきりとしたレイアウトで、全ての資料に図番号を記載し、ルビをふるなど、多様な個性をもつ生徒への配慮が感じられる。取り上げられた参考作品の数は少ないが、背景色やレイアウト等、見やすさへの配慮が感じられる。生徒作品も大切に扱っている。 ○総じて、教師が教えやすく、生徒が使いやすい教科書に仕上がっている教科書であると考えます。 	

美術科調査資料

書名 項目	『美術1』 『美術2・3』	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体が「目標」「鑑賞」「表現」と明確な構成となっており、生徒が授業の流れを理解し、制作の見通しが立てやすい構成である。 ○制作過程をていねいに示しており、表現の参考にしやすい。 ○巻末資料「学習を支える資料」には、材料や用具の使用例がわかりやすく記載され、多様な表現や自分自身で表現にあった素材を選ぶ際の参考となっている。また、QRコードを使ったWEB資料との連携も図られており、表現活動の支援や参考資料として活用しやすく、内容も充実している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発想の広げ方を示すヒントを示したり、表現の選択肢を多く示したりするなど、判断力、表現力等を育成するための工夫が感じられる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○キャラクターを効果的に使い、学習内容も「語りかけの口調＝味わおう、話し合おう」で示されており、授業の中で学習に向かう姿勢が作りやすい。 ○全体を通して、身近なものうつくしさの多様性や視点に気づかせるとともに、生徒が自分なりに表現したものを肯定してくれる記述となっている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書冒頭に各学年の学習内容と関連した「詩」が取り上げられており、その意識が全体を貫く構成となっている。 	
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○制作過程が写真を用いてわかりやすく示されており、学習意欲を喚起している。 ○作品の見方・感じ方や表現したいことには、人それぞれの良さがあることが明確に示される等、自己肯定感、学習意欲を高めようとする記述が多く見られる。 ○生徒の生活の中の時間軸を取り入れたり、椅子のデザインや地域とのつながりのあるパッケージを取り上げたりするなど、身近にある美術を印象づけている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「北斎とゴッホ」、「絵巻物と漫画」など、対比しながら鑑賞することでより深く考えさせる題材が設定されている。 ○版画や絵巻物の鑑賞では、紙の材質を変え、本物に近い風合いを出している。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○取り上げられている作品数は多いが、すっきりとまとまりがある。写真や図の重なりを避け、背景色も工夫するなど、多様な生徒に配慮した全体的に見やすい紙面である。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教師や男子生徒と女子生徒のキャラクターが随所に現れ、生徒の視点で美術の授業が進められているような表記となっている。 ○他教科や道徳とのつながりが示されている。美術史ワードなどは知的好奇心を高める上で効果的な示し方である。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○参考作品や資料等は精選されており、全体によく整理されたレイアウトと合わせて、見やすく、授業の流れがつかみやすい教科書となっている。 ○題材の配列も、時代や地域、テーマごとに関連させながら学習できるように工夫されており、関連資料の取り上げ方も適切である。オリンピック・パラリンピックのマークや津波などの災害から命を守るデザインを取り上げるなど、社会の中で「美術」が果たす役割や美術で学んだ力がどう生かされるのかが示されている。 ○美術を身近に感じられるような工夫が随所に感じられ、教員にとっては授業の流れが作りやすく、生徒にとってはわかりやすい教科書である。 	

美術科調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>『美術1 美術との出会い』</p> <p>『美術2・3上 学びの実感と広がり』</p> <p>『美術2・3下 学びの探求と未来』</p> <p>116</p> <p>日文</p>
<p>内容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <p>○学びの目標が項目ごとにまとめられており、さらに、学習のポイントが「造形的な視点」としてわかりやすく示されている。</p> <p>○材料や用具の取り扱いが「学びを支える資料」として各巻末にまとめられている。写真やイラスト、QRコードを利用した資料等、工夫して提示されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○アニメの制作過程や作家の制作手順、発想・構想の手だてなどを取り上げることで、自分の思いや考えをどのように表現し、作品にしていくかのヒントとしている。</p> <p>○「目隠しをして作った愛犬の制作」では、生徒がこれまでに経験したことのない「視覚に頼らない表現」を取り上げ、感覚の大切さや表現力を高めるヒントとしている。</p> <p>○映像表現では、機材や表現方法の選択により生まれる作品の違いを示し、自らの表現意図に沿って、思考し、判断することの大切さを示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○見開きで展開する『風神雷神図屏風』や原寸大で見る『誕生』など平面的な教科書でも空間を実感し深い学びを体験できる造形的な見方考え方を育む、鑑賞題材の仕組みがある。</p> <p>○美術でなければ学べないこととは？というヒントを「造形的な視点」として簡潔に明記しており対話によって鑑賞を深めていくことができる。</p> <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <p>○2.3下P32「どこまで修復すべきか」は、これまでにない視点から、文化遺産の継承について取り上げている。</p> <p>○2.3下P46「列車のデザイン」は、地域の伝統工芸が現代の生活にどのように活かされているのかをわかりやすく説明している。</p>
<p>資料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <p>○作者の息遣いが感じられるような原寸大資料や、浮世絵版画の刷りの雰囲気を感じられる紙の使用、作品の全体像を鑑賞出来る、360度画像が用意されたWeb資料など、これまでにない資料が用意されている。</p> <p>○印象的な写真が多く使われており、生徒の活動の写真も併せて載せているので作業イメージがもちやすい。</p> <p>○身近なデザインや作品を数多く取り上げており、生徒が興味をもちやすい。</p> <p><学習効果を高めるための工夫></p> <p>○3年分の題材が、発達段階をふまえ、系統的に学習が進められるように工夫されている。</p> <p>○題材ごとに用意されたQRコンテンツ(Web資料)は解説や参考作品を多数見られるようになっており、3社中最も充実している。</p> <p><レイアウトの工夫></p> <p>○参考作品の写真が大きく、取り上げている作品数も多い。</p> <p>○紙面は全体的にカラフルで、楽しみながら学べるようになってきている。これまでにない切口で取り上げた作品も多く、その幅広さ、多様さは新鮮である。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○カラーユニバーサルデザインに配慮した編集を行っている。レイアウトを工夫し、生徒が興味をもって学習できるよう工夫されている。</p> <p>○修学旅行で行うであろう仏像鑑賞の視点が詳しく取り上げられている。精細で鮮やかな浮世絵や、原寸大の資料など、新しい試みが数多くみられた教科書である。</p>
<p>総括</p>	<p>○生徒になじみのある、スタジオジブリの作品やユーミン(松任谷由美)さんを取り上げたり、情景写真や作者の言葉、興味を広げるコラムを掲載したりするなど、生徒の学ぶ意欲を引き出す仕掛けが多く用意されている。</p> <p>○QRコードを利用した資料が充実しており、これまでにない気づきや学びをひきだすことが可能となる。生徒の学ぶ意欲に応える新しい取組としての可能性を感じる。</p>

保健体育科調査資料

書名	『 新しい保健体育 』	2
項目		東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題とキーワードが明記されている。知識を定着させるために「活用する」を設け、課題解決に取り組みながら知識・技能を習得させられるようになっている。 ○単元名「がんの予防」では、がんのできた大腸の写真が鮮明で、生徒が視覚的にも理解を深める工夫がされている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「活用する」の欄で、資料などを基に、思考力、判断力、表現力を大切にしながら、習得した知識・技能を活用して、自分の考えを深める構成になっている。 ○「広げる」の欄で、自身の生活を振り返る問いかけがなされ、自分の考えを表現する構成になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習課題が明記されており、課題を自分のこととして捉え、主体的に学びに向かえるように工夫されている。 ○「課題の解決」や「広げる」の欄を活用することによって、自分の生活に当てはめたり、さらに調べたりすることができるようになっている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒の学びを手助けする動画やシュミレーション、他教科リンクなど、知識や技能を映像で確認できるデジタルコンテンツが大変充実している。 ○イラストや写真、グラフなどを参考にしながら、気づきや調べるきっかけを作ったり、まとめたりする学習ができるように工夫されている。 	
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の導入に、大きな写真とともにこの章で学習することが明記されており、生徒の学習意欲を喚起する資料となっている。 ○「発問」→「学習課題」→「課題の解決」→「広げる」という構成になっており、授業の展開が統一されていることで、生徒の学習意欲を引き出す工夫がされている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○キーワードを冒頭で意識させることによって、本文と知識を結びつけさせることができるように工夫されている。 ○導入時や振り返りの際に豊富なデジタルコンテンツを活用することによって、より学習効果が高めることが期待できる構成となっている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き2ページ、1単位時間の学習の流れが明確で理解しやすいレイアウトとなっている。 ○各単元末の「学習のまとめ」では、単元全体の評価を行う手掛かりとなる場面が設定されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1時間の主な流れが、「見つける」→「学習課題」→「課題の解決」→「広げる」の流れで構成されている。 ○重要な語句は資料の中で解説したり、「キーワードの解説」の中でより詳しく解説をするなどの工夫がされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒にとって、1時間の学習の流れが理解しやすい紙面構成となっている。 ○デジタルコンテンツが充実しており、用途に応じて使いやすいように工夫されている。 ○学習課題が短く、発問形式になっており、わかりやすい。 ○学習資料の写真が鮮明で、生徒の理解を深める工夫がされている。 ○章末資料には今日的な教育課題に関わる資料が充実しており、学びを深め広める工夫がされている。 	

保健体育科調査資料

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>『中学校保健体育』</p> <p>4</p> <p>大日本</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各ページの資料や、章末資料、章末の学習のまとめで知識を広げ深めることや、整理に役立たせることができるようになっている。 ○章のまとめで、重要な言葉について整理されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つかもう」で身近な疑問から学習をスタートさせる工夫がされている。 ○習得した基礎的・基本的知識を活用するために、「やってみよう」、「話し合ってみよう」、「調べてみよう」などの課題解決の項目が設定されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のねらいを明確にし、「つかもう」で課題を発見し授業を意欲的に取り組ませる工夫がされている。 ○「活用して深めよう」では、学習したことを整理し、活用しながら学びを深め、課題に取り組む工夫がされている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章扉で小学校や高等学校の関連する学習内容が示されていること、「リンクマーク」の表示が教科内や、他教科とのつながりを示しているなど系統性をもった学習ができるように示されている。 ○実習の手順を折り込みにして表示することにより、実習の際に見やすく取り組むことができるようになっている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元のはじめの「つかもう」が自分自身の生活や経験を振り返って考える活動が掲示されており、学習意欲を喚起するためのものとなっている。 ○口絵が豊富であり、個に応じて、ミニ知識やトピックスにより学習を深められる工夫がされている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○専用のウェブサイトの動画や資料を使い学習をすることができる。 ○各章ごとに「学びを活かそう」があり、自分の考えを書き出すことができ、表現力が高められる使用となっている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の見開きのページの中で、左側には本文、右側には資料というどのページも統一がされていて、ユニバーサルデザインの観点からも見やすくなっている。 ○1時間の学習について2ページの構成でまとめている。特に、左ページに「知識」について取り上げ、右ページには「思考力、判断力、表現力等」及び「学びに向かう力」について取り上げられている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「学習のねらい」→「つかもう」→「やってみよう・話し合ってみよう・調べてみよう」→「活用して深めよう」という流れで1時間が構成されている。 ○見出しに色がついており、視覚的にとらえやすい。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○小單元ごとの構成が統一され、見開きページの左側には本文、右側には資料とユニバーサルデザインの観点からも見やすくなっている。 ○各章ごとの「学びに生かそう」では記入欄が設けられ、活動に取り組みながら深い学びが出来るよう構成されている。 ○章のまとめで重要な言葉をまとめ、学習の整理に役立てられるようになっている。 ○技能の定着を図るために、折り込みによる実習手順が紹介されており、スムーズに実習が行えることや、生徒が視覚的に捉えやすくなっている。

保健体育科調査資料

書名	『 最新中学校保健体育 』	50
項目		大修館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「きょうの学習」の欄で、キーワードが明記されており、基礎的・基本的な知識及び技能を身につけられるようになっている。 ○各単元の内容が、「つかむ」→「身につける・考える」→「まとめる・振り返る」の学習パターンでまとめられており、基礎的・基本的な内容を習得できる構成となっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「課題をつかむ」で気づきや思考を促し、「学習のまとめ」で思考力・判断力・表現力を育成し、日常生活につなげることができるようになっている。 ○「学習のまとめ」の欄で、学習したことを基に、自身の考えを深めたり、他の人と一緒に伝え合う構成となっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「掘り下げる」の欄では、さらに深い知識を与え、興味や関心を高めさせる工夫がされている。 ○「章のまとめ」の三観点別の問題では、学んだことを基にして、自分の課題を見つけたり、考えを深めたりする活動を通して、意欲的に取り組めるように工夫されている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小タイトルがゴールに向かうための文章で書かれているため、生徒が学習課題を明確に捉えやすい工夫がされている。 ○各章のはじめに「章のとびら」を設け、小中高の系統性を示して関連性を持たせる工夫がされている。 	
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「課題をつかむ」で、発問の工夫がされており、生徒の関心や意欲を高める工夫がされている。 ○生活に関連した情報の「コラム」や「事例」が豊富に記載されていることによって、生徒の学習意欲を喚起する資料となっている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○章のまとめには、新学習指導要領における評価の三観点を意識した問題が工夫されている。特に、「学びに向かって」では、学んだことをもとに、自分の課題を見つけることにつなげる工夫がされている。 ○特集資料が大変充実しており、生徒は学んだ知識を基に、自分の身近な生活や今後の生き方に活かすことができるように工夫されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「章のまとめ」では、新学習指導要領における評価の三観点を意識した構成がされている。 ○グラフや資料の中に「よみ取る」マークがあり、資料を読み取るためのポイントが詳しく解説されており、理解を深められるようになっている。 ○ユニバーサルフォントを採用している。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○「つかむ」→「身につける・考える」→「まとめる・振り返る」という順番で構成されており、学びを深める工夫がされている。 ○イラストや写真、資料の大きなレイアウト、配色の見やすさなどの工夫があり、学習内容を理解しやすい工夫がなされている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○資料の内容が大変充実しており、生徒が意欲的に学ぶことができる内容となっている。 ○「章のまとめ」では、新学習指導要領における評価の三観点を意識した問題が工夫されている。 ○「よみ取る」マークでは資料を読み取るためのポイントが詳しく解説されており、理解を深められるようになっている。 ○小タイトルが1時間のゴールに向かうための文章で明記されており、課題がつかみやすくなっている。 	

保健体育科調査資料

書名	224
項目	中 学 保 健 体 育 学 研
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○冒頭にキーワードを示し、基礎的語句を学ばせるとともに、終わりに「まとめる・深める」でその時間に習得した知識を整理し、深めることができるように工夫されている。 ○図や写真の資料に加え、欄外に補足説明や情報サブリによって豊富な知識が得られるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○思考力、判断力、表現力等が身につくような活動になるよう、学習の目標→課題をつかむ→考える・調べる→まとめる・深めるという流れが設定されている ○課題解決に向かい、課題解決の仕方も身につけられるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各章末に「探求しようよ」が提示され、より深い学びの興味をひかせる工夫がされ、「振り返ろう」での自己評価欄を設けることにより、内容理解の手助けがされている。 ○各単元の最後に、「まとめる・深める」の欄があり、学習のまとめとして目標を立てたり、さらに考えたりするなど、実生活につなげることができる工夫がされている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「もっと広げる・深める」や、「探求しようよ」などの知識を活用するページが設定されており、深い学びの充実がなされている。 ○本文や資料以外に、リンク(参考になるウェブサイト)など欄外の補足資料が豊富である。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元のはじめの「課題をつかむ」で、身の回りや普段の生活を手掛かりとして学習の課題や健康課題に気づくことができるよう工夫されている。 ○各章のはじめに課題解決に向けた学習の仕方が明記され、コラムや実生活での関連を取り入れ学習意欲につなげるよう工夫されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習動画や、関連サイトと連動している教科書サイトを紹介している。 ○豊富な資料や補足説明で知識を関連付けて定着させるよう工夫されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開いたときの視覚に入りやすいカラーやレイアウトである。 ○冒頭の目標やキーワードから最後の「まとめる・深める」までの位置関係が統一されており、学習しやすい構成になっている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒に無理なく理解できるよう簡潔で平易なものとしている。 ○1時間の内容が見開きで見やすく構成されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○本文や資料以外に、リンク(参考になるウェブサイト)など欄外の補足資料が豊富である。 ○「もっと広げる・深める」や「探求しようよ」などの知識を活用するページが設定されており、主体的・対話的で深い学びの充実がされている。 ○学習の目標、本文・資料、補足説明、まとめる・深めるという学習しやすい流れで構成されている。 ○章の扉には小中高の学習の系統性が表記され、章末には自己評価欄を設けることで内容理解に対する自己評価を手助けすることができる。

<p>書名 項目</p>	<p>『新しい技術・家庭 技術分野 未来を作る Technology』 2 東書</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得できるようにするための工夫＞ ○各内容とも技術の原理・法則と仕組み、技術による問題解決、社会発展と技術で構成され、導入において「技術の最適化」で技術の見方、考え方に気付けるようにしている。また今後の学習への繋がりを意識した学習内容の構成になっており、次の学習への見通しが立てやすくなっている。 ○図や写真と共に、学習内容に関連する情報を多数掲載するとともに、他教科との関連についても触れ、知識を深めることができようになっている。 ＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞ ○各内容の技術による問題解決前に、「○○の技術の工夫を読み取ろう」という項目を掲載し、先人たちがどのような見方や考え方で、技術の工夫を行ってきたのか、学習してきた知識と関連付け、生徒に気付かせることができるようになっている。 ○問題解決部分で、課題設定の例として、それぞれの学習状況に合うような具体例を示すとともに、課題設定の方法なども、活用例を示すことで、生徒の思考を促せるようになっている。 ＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞ ○「考えてみよう」「やってみよう」という項目を掲載し、生徒が興味関心を持ち、自ら考え、学習活動に取り組めるようになっている。 ○各学習内容の問題解決場面で、「テックラボ」という、今まで学習してきた知識の詳しい内容を掲載し、生徒が課題解決のために、自分の必要な知識を状況に合わせて選択し、主体的に学習する活動を行えるようになっている。 ＜技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫＞ ○ガイダンスのページから環境への負荷や安全性などの、技術の見方・考え方の視点についての項目を掲載し、学習全体を貫いて持続可能な社会の構築に向けた、構想や技術との関わり方について、生徒が気付くことができるようになっている。 ○Society 5.0を支える技術の紹介やSDGsが目指す持続可能な未来へ向けて技術をどのように活用していくか、考えられるよう工夫されている。 ＜よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫＞ ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて技術のプラス面・マイナス面について考えたり、これからの技術の改良・応用について考えたりできるよう配慮されている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○学習内容に即した図や写真を効果的に活用し、学習への関心を高めるとともに、今後の学習内容に関係する図や写真も併せて掲載することで、今後の学習のイメージを持たせ、生徒の意欲を高めることができるようになっている。 ○多くの学習計画に対応できるように、写真や図、イラストなどを効果的に掲載している。 ○技術の見方・考え方チェックという項目を掲載し、学習のまとめ毎に、生徒に気付かせたい技術の見方・考え方について振り返りを行うことができるようになっている。また、技術の工夫の項目を掲載し、学習内容に関連した課題の解決方法など、課題を考えるための方法などの補助にすることができるようになっている。 ○学習のポイントなどに、共通のマークやポップを活用すると共に、各学習内容の関連、他教科との関連内容をリンクとして掲示し、学習の振り返りなど、課題を考える活動に活用できるようになっている。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○各内容が、共通の構成になっており、見出し等で各章の場所も分かりやすいものになっている。 ○文章は、ユニバーサルデザインフォントで表記されおり、誰にでも見やすいものになっている。重要語句は、太文字で表されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○思考する場面、話し合う場面が、学習の流れに合わせ効果的に掲載され、生徒の知識、技能の習得と共に、技術の見方、考え方に気づかせることができるよう工夫がされている。 ○学習内容毎に多くの資料と、関連した情報が充実しており、生徒が課題設定、課題解決の場面で、調べ学習等での活用も視野に入れた内容構成になっている。</p>

<p>書名 項目</p>	<p>『 New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する 』 6 教 図</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫> ○学習の明確化を図るために、「めあて」と「ふり返る」項目が設定されており、具体的な目標を持って学習が行えるように構成されている。また、「キーワード」を各学習項目に設定しており、学習のポイントとして生徒が意識しながら学習することができるように工夫されている。 ○学習のまとめ毎に、具体的な実習事例や実験事例が掲載され、体験的な学習を通して知識を深めることができるようになっている。 <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○実習例が多く掲載され、目的や条件について詳しく例示をすることで、生徒が課題解決のための参考にし、思考を深めることができるようになっている。 ○各内容の技術における構想をする場面で、生徒が着目すべき内容を掲載し、生徒が見通しをもって問題解決的な学習を行えるようになっている。 <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「見つける」「つくってみよう」「やってみよう」という項目を掲載し、生徒の興味関心を高め、主体的に学習を進めることができるようになっている。 ○各学習の例示や実習事例が詳しく、具体的な内容になっており、生徒が活動する場面でイメージを持ちやすく、自分の活動に活用しようとする意欲を高めることができる。 <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容のまとめで、それぞれの技術のプラスの面とマイナスの面について提示し、これからの技術について生徒が考え、これからの社会にどう関わっていったらよいか、思考を深められるようになっている。 ○Society 5.0やSDGsなどを取り上げ、未来の社会を創造するという意識が持てるよう工夫している。 <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では技術の見方・考え方を働かせて技術のプラス面・マイナス面について考え、まとめでは技術の役割や活用、発展について考えられるよう配慮されている。</p>
<p>資 料</p>	<p>○具体的な実習事例を学習内容毎に、写真などを効果的に活用し、分かりやすく掲載することで、実習への意欲を高めるとともに、それに関連した知識への興味・関心も高められるように工夫されている。 ○どのような学習計画にも対応できるように、写真や図、イラストなどを効果的に掲載している。 ○別冊の技術ハンドブックに、各学習内容の基礎技能と用語集をまとめ、生徒の実習や作業などの場面で、生徒が自分自身の課題解決のために必要な知識を、自ら調べることができるようになっている。 ○重要語句や留意事項に、マーカーや太文字などの分かりやすい強調方法を使用すると共に、共通のマークやポップを活用し、生徒が学習課題を考える場面や教科書を活用する場面で、効果的な活用が行えるようになっている。 ○QRコードが各ポイントにあり、関連した資料やプログラムなどを見ることができる。</p>
<p>表記・表現</p>	<p>○各内容が、共通の構成になっており、見出し等で各章の場所も分かりやすいものになっている。 ○文章は、ユニバーサルデザインフォントで表記されおり、誰にでも見やすいものになっている。重要語句は、太文字で表されている。</p>
<p>総 括</p>	<p>○体験的な学習を通して基礎技能を身につける内容が多く掲載され、生徒の意欲を高める構成となっている。 ○生徒が着実に基礎基本の知識と技能を身につけられるように、具体的な活動事例や詳しい作業説明、写真や図の活用など多くの工夫がされている。 ○実習時、手軽に持ち運べる別冊「技術ハンドブック」には基礎技能がまとめられていて、基礎技能の習得を図ることができるように工夫されている。</p>

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>『技術・家庭 技術分野』 9</p> <p>テクノロジーに希望をのせて』 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れに合わせ、学習ごとに「学習の目標」を設け、学習内容の明確化が図られるようになっている。また、大きな学習のまとめでは、「振り返り」の項目を設けてあり、学習後の振り返りを行いながら、知識を深めることができるようになっている。 ○重要語句などを確実に習得させるため、その語句に関係する図や写真などを複数掲載している。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「問題解決の流れ」・「問題の発見と課題の設定」の項目を掲載し、ここまで学習してきた知識をどのように問題発見、課題設定、そして課題解決に活用するのか、生徒が理解しやすくなっている。 ○実習例の内容が、問題発見、課題設定、課題解決の流れと作業工程、設計図を共に紹介するようになっており、生徒が実際に取り組む際、参考にしやすいものになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒が主体的に学習を進められるように、「調べてみよう」「話し合ってみよう」という項目を掲載し、具体的な回答を例示せず、生徒自ら考える場面や興味関心を高める場面として活用できるようになっている。 ○学習の内容毎に、学習した知識を活用する課題を掲載し、生徒が知識を活用する意欲を高めるとともに、学習への必要性を高めることができるようになっている。 <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○実習の安全指導として、実習中の安全な作業方法、事故防止のための留意事項をガイダンスのページにまとめたり、各学習内容の注意点などを安全のマークなどで示したりして、生徒が自ら気づけるように構成されている。 ○技術の見方・考え方に関わる事項について、「防災」「環境」「トレードオフ」などのマークで示し、生徒が持続可能な社会の構築に向けた構想や技術との関わり方について考えることができる。 <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各内容の最終章では、これまでの学習をふり返り、技術の見方・考え方について考えたり、技術の役割やこれからについて考えたりできるよう配慮されている。
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○イラストと図を活用し、学習内容と関連した内容を掲載することで、生徒の興味関心を高めるとともに、今後の学習へのイメージを明確にして実習への意欲付けが行えるようになっている。 ○様々な学習形態や指導計画に対応できるように、写真や図、イラストなどが効果的に掲載されている。 ○まとめや振り返りの項目を掲載し、学習後の知識をさらに深めることができるようになっている。また、豆知識の項目を掲載し、関連した知識への関心を高めると共に、課題を考えるための新たな視点を与えることができるようになっている。 ○重要な語句や留意事項に、共通マークやポップを活用すると共に、イラストと吹き出しなどの活用も行うことで、生徒の興味・関心を高めながら、深め考える学習活動が展開できるように構成されている。 ○QRコードが各ポイントにあり、関連した動画やコンテンツを見ることができる。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各内容が、共通の構成になっており、見出し等で各章の場所も分かりやすいものになっている。 ○文章は、ユニバーサルデザインフォントで表記されており、誰にでも見やすいものになっている。重要語句は、太文字で表されている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れに沿った内容構成になっており、学習を進める事で、生徒が自ら考え課題を解決するための基礎的知識と技能を身に付けることができるように工夫されている。 ○学習に関連した図や課題、QRコードによる関連情報の紹介など、生徒の興味・関心、学習意欲を高める事に重点が置かれた工夫が多くされている ○言葉の判別がしやすくなるよう改行のしかたを工夫している箇所がある。

書名 項目	『新しい技術・家庭 家庭分野 自立と共生を目指して』 2 東書
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○内容ごとに身に付けさせたい知識がキーワードとして示されていて、わかりやすい。また、各内容の終わりにある「学習のまとめ」「大切な用語（重要語句の一覧）」で繰り返して学ぶことで、知識の定着が図られるように工夫されている。 ○身に付けさせたい基礎的な知識・技能を「いつも確かめよう」にまとめ、基礎的な知識・技能を確実に習得できるようにしている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスの「問題を解決する道筋」では、問題解決的な流れを示し、その後の学習や家庭生活での問題解決に生かすことができるように工夫されている。 ○実習例では、「私のオリジナル」として工夫例を挙げ、生徒の創造性を広げることや、家庭での実践に役立てられるようにしている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ガイダンスでは、自立と共生について、家庭分野の学習で「何をどのように学ぶのか」を明確に示し、よりよい生活を創ろうとする態度を身に付けることができるように工夫されている。 ○「～してみよう」「生活に生かそう」等、生徒に活動を促す投げかけが多く見られ、家庭での実践に結びつけられるように工夫されている。 ○「プロに聞く！」では、家庭分野での学習を生かしたり、関係の深い仕事に就いている人たちのメッセージを紹介したりすることで、家庭分野の学習と社会とのつながりを感じられるようにしている。 <p><実践的・体験的な活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒や学校の実態に合わせた実習ができるように、幅広い難易度の実習例が掲載されていて、習得すべき技能が確実に身に付けられるようになっている。 ○「活動」として調査活動や比較実験等の課題を設け、生徒が実践的・体験的に学べるように工夫されている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○写真資料が充実していて、イメージがもちやすく、生活経験の少ない生徒でも実感を伴って学べるように工夫されている。 ○「せいかつメモ」では、身近な生活に関する内容が載せられていて、生徒が興味・関心をもって読めるように工夫されている。 ○実物大の写真資料や巻末の子どもの視界体験眼鏡、防災・減災手帳やパラパラマンガなど、生徒の興味・関心を引く工夫が多く見られる。 ○インターネットを活用して効果的に学習を進められるデジタルコンテンツが充実していて、授業や家庭での実践に意欲がもてる工夫がされている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きページで構成され、「目標」「始めの活動」「まとめの活動」などを同じ位置に配置してあり、分かりやすくなっている。 ○各内容は、色分けされていて分かりやすく、ページの右端にある見出しによって、検索しやすいように工夫されている。 ○書体は、判別しやすいユニバーサルデザインフォントになっている。教育漢字以外の漢字には全て丸ゴシック体のふり仮名が付いていて、多様な生徒に対応できるようになっている。 ○小学校や他教科の学習との関連がマーク等の表記で明確に示されていて、教科横断的に学習が進められるようになっている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各内容の導入では「この内容で学ぶこと」、学習のまとめりごとには「目標」を示し、学習のゴールが明確になっていて、見直しをもって学習できるようになっている。 ○生徒の興味・関心を高める写真資料や学習内容の情報が豊富で、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○生徒が生活の中での課題を見つけ、実践的・体験的な学習を通して課題を解決し、学んだことをこれからの生活に生かしていけるように工夫されている。 ○ガイダンスの後、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）、A（家族・家庭生活）の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。

技術・家庭科（家庭分野）調査資料 作成の観点

書名 項目	『New技術・家庭 家庭分野 くらしを創造する』 6 教 図
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめりごとに3つのステップ（「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」）の流れに沿って学習を繰り返し、問題解決的に知識・技能を身に付けられるように工夫されている。 ○各内容の終わりに「章末のまとめ」があり、確実に知識・技能が身に付けられているかを確認できるようになっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめりごとに「やってみよう」「学びを生かそう」の順で構成されていて、「やってみよう」で身に付けた知識や技能を生かして、「学びを生かそう」で自分の課題に取り組むことで、課題を解決する力を養うことができるようになっている。 ○実習例には、「私のアレンジ」として工夫例を挙げ、生徒が自分の課題を設定するときの参考になるようになっている。また、調理実習ページでは、献立の組み合わせ例や失敗例を挙げ、家庭での実践に役立てられるようになっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめりの始めには「めあて」が示されていて、見通しと課題意識をもって学習を進めることができるようになっている。また、終わりには「ふり返る」を設定し、生徒が評価と学びを書き込める欄を設け、自分なりに学びを見つめ返し、今後の学習や家庭での実践への意欲を高められるように工夫されている。 ○「センパイに聞こう！」では、家庭分野での学習を生かしたり、関係の深い仕事に就いている人たちからのメッセージを紹介したりして、家庭分野の学習と社会とのつながりを感じられるようにしている。 <p><実践的・体験的な活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「話し合ってみよう」「調べてみよう」など、実践的・体験的な活動を通して学ぶことができる活動が多数掲載されている。 ○ロールプレイング等の活動や、デジタルコンテンツの動画の視聴などで、体験的に学べるように工夫されていて、家庭での実践にも役立てられるようになっている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○各内容の導入では、テーマに沿って生徒の興味をひく写真やイラストを見開きで掲載し、興味・関心を高めて学習に入れるように工夫している。 ○実習例の完成写真は大きく掲載し、完成をイメージしやすいように配慮されていて、生徒の意欲が高まるように工夫されている。 ○調理実習に使う材料や食品成分表には、6つの基礎食品群が分かるマークが付いているなど、既習事項が様々な場面で確認できるようになっている。 ○作業動画などのコンテンツを参照できるQRコードが掲載され、動画で確認しながら学習を進めることができるように工夫されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの同じ場所に3つのステップが配置されていて、見通しをもって学習ができるようになっている。 ○文字は、ユニバーサルデザインフォントを使用し、読みやすい大きさや行間になっている。 ○重要語句は太く、青のゴシック体で示し、分かりやすくなっている。 ○本文は簡潔な文章になっていて読みやすく、吹き出しは親しみやすい口語的な言い回しが使われている。 ○内容ごとに色分けされて見やすく、見出しが付いているので検索しやすい。 ○食物アレルギーへの対応として、調理実習では代替の食品例を表示するなどの配慮がされている。 ○他教科や小学校など、他の学習との関連をマークで示し、幅広い知識が身に付けられるように工夫されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○図や写真が大きく提示されているので分かりやすく、確実に知識や技能が身に付く学習ができるように工夫されている。また、文章表現や行間の幅が読みやすくなっている。 ○実習例が豊富に掲載され、生徒が興味・関心を高めて学習できるように工夫されている。 ○消費者教育に重点を置いていて、様々な内容と関連づけた学習ができるように工夫されている。 ○ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）B（衣食住の生活）C（消費生活・環境）の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。

書名 項目	『技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生』 9 開隆堂
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○資料の写真が大きく、効果的に配置されているので、生徒が目で見ても分かりやすいように工夫されている。 ○調理や製作などの実習手順図は、横に流れる記述で分かりやすく示している。特に調理の手順は、全て写真で表示されていて、生徒が確認しながら知識や技能を身に付けられるように工夫されている。 ○各内容の最後に「学習のまとめ」を設け、学習したことが確認できるようになっていて、知識や技能が確実に身に付けられるように工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめごとに、学習過程が教科書全体で共通しているのでわかりやすく、課題解決に向けて取り組みやすいように工夫されている。 ○話し合いの活動や思考する活動、意見を述べる活動など、様々な言語活動ができるように設定されていて、生徒自らの考えを広げて深められるような工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各内容の学習の始まりには、見開きのページで大きく写真や図を掲載し、生徒の興味・関心を高めて、主体的に学習に取り組めるように工夫されている。 ○学習のまとめごとに「生活にいかそう」が示されていて、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うようになっている。 ○「先輩からのエール」では、家庭分野での学習を生かしたり、関係の深い仕事に就いている人たちからのメッセージを紹介したり、家庭分野の学習と社会とのつながりを感じられるようにしている。 <p><実践的・体験的な活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えてみよう」「やってみよう」など、体験的に学べる工夫が随所に見られる。 ○家庭でも取り組みたくなる調理実習例や、普段から使いたくなる製作実習例など、生徒が学んだことを自らの生活に生かすことができる工夫がされている。
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○実物大の写真など、生徒の興味・関心を高める資料が多く、学習に取り組みやすいように工夫されている。 ○各ページの下に、「豆知識」が掲載され、興味・関心に応じて更に学びが広げられるように工夫されている。 ○実習手順の写真は、実習する生徒の目線から見たアングルで掲載され、実際の調理がイメージしやすいように工夫されている。 ○安全や防災に関する資料が充実していて、日常生活場面において気をつけておくことなどが、随所に掲載されている。 ○デジタルコンテンツが充実していて、作業の手順や実験などを動画で確認することができるので、生徒は実感を伴って学習できるようになっている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文中の重要語句は太字で分かりやすくしている。本文の文字はユニバーサルデザインフォントを用いて、多くの人に見やすいようになっている。 ○目立ちやすいマークやキャラクターが効果的に示されていて、疑問を投げかけたり、つまづきやすい内容を補足したりしている。 ○本文は、文章の意味がつかみやすいように、1つの単語が行をまたがないように調整してある。 ○内容ごとにページが色分けされていて、分かりやすい。 ○他教科、他分野、小学校、高校と関連している学習には、それぞれマークが示され、分かりやすいように提示されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の導入で、学習の動機づけができるように工夫されていて、生徒が興味・関心をもって学習を進めることができるようになっている。 ○「やってみよう」「話し合ってみよう」など、活動を促す場面が多く設定され、生徒が活動しながら学んでいけるような構成になっている。 ○本文や資料、図などがバランスのよい量で、学習しやすい位置に配置されている。 ○ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）B（衣食住の生活）C（消費生活・環境）の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。

外国語科（英語）調査資料

書名	2
項目	『NEW HORIZON English Course』 東 書
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Preview で単元の場面、状況、目的を明らかにして導入されている。 ○本文の読み取りが、「概要把握」「詳細」「本文の内容から自己表現への変換」へと3段階で発展していく構成になっている。 ○Key Sentences は教科書本文からの抜き出しで構成されている。 ○Let's talk/ listen として、生活場面での会話表現に特化した題材が用意されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Unit の最後にタスク学習 Unit Activity があり、また複数の Unit の学習後に Stage Activity（プロジェクト型学習）の自己表現活動で4技能5領域を統合的に発展させることができるようになっている。 ○Grammar for Communication では Use→Form→Let's Try の流れで文法をまとめた後、それらを使う活動が用意されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Mini Activity では、既習の言語材料と4技能を総合的に活用しながらコミュニケーションを行うことができるようになっている。 ○Unit Activity では、Mini Activity で積み重ねたことを用いて自己表現活動を行うことができる。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと【やりとり】、話すこと【発表】、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出言語材料を教科書本文の流れに沿って練習することにより、場面を意識した活動が行えるように工夫されている。 ○Let's～では、4技能に特化した言語活動を行うことができる。 ○QR コードによる、本文等の音声配信がある。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「英語を学ぶ意義」を考えるページが設けられていて、ゴールや使い方が明確になっている。 ○Small Talk を意識するページが設けられ、そのページを通して、教科書の振り返りや確認が行いやすいように設計されている。 ○小学校からのつながりを強く意識して構成されている。 ○巻末資料には Can-Do リストがあり、生徒が自分の学習達成目標を確認することができるようになっている。 ○小学校の単語と New Words が区別されているのでわかりやすい。 ○扉に Unit と単元を通して身に付けるべき達成目標が提示されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材が1年生から3年生にかけて、段階的に自分の周りの世界から社会全体とのかかわりについて考えを広げることができるような構成になっている。 ○Word room や学び方コーナーなど、学習を進めるうえでのヒントが適宜挿入されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページ上部に活動の目標が示してあり、活動の目当てがわかりやすい。 ○他の教科書に比べて一回り大きいサイズの教科書である。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の最後の Let's Read 以外は、小文字の aなどを意識したフォントで構成されている。 ○発音記号は2年次から新出単語と合わせて記載されるが、アクセントについては1年次より記載されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書本文を中心とした活動が多く、本文の内容を楽しみながら新出言語材料について学べる内容になっている。 ○1年生の Unit 1～5のように、小学校の外国語・外国語活動との接続が重視され、言語習得の順に沿った学習内容となっている。

外国語科（英語）調査資料

書名 項目	9
	『Sunshine ENGLISH COURSE』
	開隆堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Scenes では2コマ漫画を用いて新出言語材料が使われる場面や状況を分かりやすく提示している。Scenes の1～3はストーリーにつながりがある。 ○Scenes で新出言語材料を学んだあと、Listen, Speak, Write の三段階の活動で繰り返し言語材料を練習し習得を目指している。 ○Word Web ではイラストと共に使用頻度が高い語彙が見やすく整理されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Think では、Scene で学んだ言語材料を含んだ本文を読み、Retell で発表を行い、Interact で必然性のある場面設定でのやりとりを行う。言語材料を学び本文で内容を深めるという構成になっている。 ○各 Program のゴールとして Our Project が設定されている。Our Project では Program で学んだ内容を、自己表現活動を通して思考・判断・表現の力を養えるよう工夫されている。 ○Our Project では「聞く→読む→書く→話す」の順序でスピーチ等の原稿を作成できる構成になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Program ごとにある Retell では教科書の内容を自分の言葉で相手に伝える活動が取り入れられている。写真や絵、語句が示されており、言語活動が行いやすいように工夫されている。また、Interact において、学んだ言語材料を活用する活動が取り入れられている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○新出言語材料を学びページでは「Scenes→Listen→Speak & Write」という流れで統一されており、4技能をバランスよく学べる。 ○Power-up では各技能に特化したコミュニケーション活動を行う。 ○新出語句は太文字と細文字に分けられ、区別されている。単元内のセクションごとに QR コードを掲載し、文字と音声、スライドを再生することができる。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Think のページ下に音読の回数を塗るマークがある。音読を何回行ったか視覚的に見えるように工夫されている。 ○各学年の巻頭に各単元の構成が示されており、学習の見通しを持つことができる。 ○Scenes ではイラストと共に学習する言語材料が掲載されており、場面的確にとらえることができる。 ○巻末資料に CAN-DO List があり、学習者の技能目標を確認することができる。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Our Project へ向けて Program ごとに学ぶ内容が整理されている。 ○Steps という項目が Program と Our Project の橋渡し役になっている。 ○巻末のアクションカードを用いて動詞をコロケーションとして学ぶことができる。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の Program 1～3 では Think の場面で各キャラクターが話す英語が顔で記載されている。 ○1年生の巻末資料の9単語と熟語がアルファベットごとに改行され見やすくなっている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の前半は手書き文字に近い書体、後半は活字体に近い書体になっている。2, 3年生は活字体とブロック体が併用されている。 ○各学年共通でアクセントは各単語に水色で付記されている。発音記号は巻末資料に掲載されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体の構成として Scenes で基本文を習得した後、Think で題材について考え、Retell 自分の言葉で本文を話す活動を行い、Interact で自己表現の力を身に付けるという学習の流れになっている。 ○Program で学んだ内容をまとめたり発展させたりする Our Project で相当のページを割いて5領域の統合的な活動を行うことができる。

外国語科（英語） 調査資料

書名	15
項目	『NEW CROWN English Series』 三省堂
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Get で知識理解を行い、次に活用し技能を身に付けるために Use で Read / Speak / Write など目的や状況に応じて自己表現を行う、さらに Take Action では実生活の場面を想定した自己表現活動につなげる。最後に技能を統合し、思考判断を深めるまとめ活動に Project が設定してある。 ○各 Lesson のセクション構成は、Get-Part1, Part2 の2ページでその単元のテーマに沿った概要読解の本文を読み、3～5ページ目に Use を配置して、内容を発展させ、思考判断を伴う表現活動に発展させている。ひとつのテーマをしっかりと掘り下げて、深め、自己表現まで高める、じっくりと取り組む構成になっている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Use では、意見・説明・物語文で構成された Read で情報を整理してから Speak / Write で目的や場面、状況に合わせた自己表現活動を行う。 ○Project 活動の自己表現での Task タイトルが、「理想のロボット」や「英語のタウンガイド」など、生徒が主体的に取り組みやすい課題になっている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本文が「車イスバスケ」、「富士山のごみ拾い」など、社会や自然科学、伝統文化等に幅広く触れ、SDGs の様々な課題に対応している。 <p><聞くこと、話すこと、〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書本文、New words, Take Action, Project に関する音声 QR コード配信がある。 ○Get Plus では場面設定が明確にされた言語活動が設定されている。 ○言語活動に必要な語彙は Word Bank や Idea Box に、新出語彙で発信語彙は太字で表記。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○裏表紙 What Can I Do? に、領域ごとの育成したい目標を示し、単元の最初に活動内容や目標を明示し、学習の見通しが立てられる。 ○テーマが多岐に渡り豊富な話題で興味を喚起している。 ○言語活動の設定の量が豊富である。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Lesson の扉に Get / Use / Take Action / Project の Goal を示している。 ○Lesson のなかで、Use の活動のバラエティが豊富で、Stage1,2,3 Step1,2,3 と、Goal に到達するまで、細かく段階を追って取り組み、正誤を確認しながら次に進めるように構成されていて、取り組みやすい。 ○標識、チラシ、チケット、引用、図表など、資料の提示に実社会でのコミュニケーションに役立つ材料が多い。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○会話の場面では登場人物と吹き出しの配置がわかりやすい。物語や資料では、囲み枠が分かりやすく色分けがしてある。 ○文法の統語説明に、汽車のイラストを使って文のイメージを示してあり、わかりやすい。 ○New Words が左外、右外と両端に提示してあり、一目で探しやすい。 ○写真資料などが多く、効果的に使われている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年が独自の書体、UD フォント、ブロック体、活字体を段階的に使用し、2、3年は併用している。 ○1年ではアクセントは各単語に付記、発音記号は巻末。2、3年のアクセント、発音記号は水色で併記されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元が基礎の習得から各領域の活動を通して活用する力を身に付ける構成になっている。 ○ノンフィクションのストーリーが多く、生徒の興味を喚起している。

外国語科（英語）調査資料

書名	17
項目	『ONE WORLD English Course』 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページ上部にそのページごとの学習の Goal が明示されている。 ○Lesson 構成は、Part 1, 2 が会話、Part 3 で 1, 2 の話題について考えを深めながら読めるような説明や感想などの叙述文になっている。各 part につき key sentence の提示と Tool kit による場面・状況理解の補助説明と Listen で理解を深め、最後に Think & Try でアウトプット活動、という流れで構成され、Part ごとに学習の定着の確認ができる。3つの Part 学習したのち、Review, Task, Grammar と発展学習のための課題が設定され、最後に Lesson を振り返ろうとして、Lesson についての Can-do が確認できる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○内容把握の際、場面設定と、人物の反応が自然な流れで把握しやすい構成になっている。 ○Activities Plus として、帯活動で活用できる Input 教材がある。QR コード読み取りにより、自学できる。 ○複数 Lesson のまとめと発展学習として、Project 学習が設定され、4技能5領域でのパフォーマンス活動で思考・判断・表現の力を養うことができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Project 活動により既習事項を統合的に活用し、課題を達成する活動がある。 ○SDGs との関連課題の題材が、学年の発達段階に沿って発展的に配置されている。 <p><聞くこと、話すこと、〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Lesson の扉では、QR コードで単元の題材が配信され、生徒は各自で Oral Introduction を聴けるようになっている。 ○Think&Try では登場人物になりきったり、本文の続きを創作して書いたりと様々な活動の工夫がある。 ○Task で5領域を統合した活動に発展させている。 ○言語活動で活用する語彙は Tool Kit, Tips に掲載され、新出語彙 Words & Phrases で発信語彙の内特に覚えない語を太字で表記している。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生の Springboard で、小学校での外国語活動の学びを振り返りながら、英語学習に移行する流れを意識させ、既習事項を生かしつつ発展学習へと向かう見通しを持たせている。 ○Part を読み進めると、最後に話の結末が分かるような内容で、興味を喚起している。 ○巻末 CAN-DO 自己チェックリストで各領域の目標が提示され、各単元末に達成状の振り返りができる。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Tips で技能習得のポイント解説と、How to Study で学び方のポイント解説がある。 ○3年間で扱う題材が、身近な生活から社会に関わる姿勢について考える題材まで、系統的・発展的に配列され、興味を喚起する内容になっている。 ○Can-do リストに3学年の関連が記述されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○イラストの内容や配置が効果的に多用されている。 ○ブログ形式や、セリフの吹き出しなど、状況を読み取りやすいレイアウトになっている。 ○メール、記事、手紙などの枠のデザインと色分けが見やすく分かりやすい。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年の初期から UD フォント、ブロック体、ローマン体を併用。 ○アクセント記号は3学年ともすべて付記。発音記号は1年が巻末、2, 3年は併記。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元の3つの Part を通して学んだことを巻末の Activity Plus で活用させ、定着を図り、Project で5領域の統合的な活動に発展させている。 ○各 Lesson 終末の振り返りのところでは、一貫して「何ができるようになるか」の指針が示されている。

外国語科（英語）調査資料

書名 項目	38 『Here We Go! ENGLISH COURSE』 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各 Unit は本文を読んだ後、Listen, Speak, Write で基本本文の練習を行う形式になっている。基本本文は教科書本文からの抜き出しになっており、教科書の内容を確認しながら新出文法を整理できるようになっている。巻末付録の英語のしくみでは「英語の語順」や「動詞」など、生徒がつまずきやすいポイントが整理されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各 Unit の扉で概要をつかんだ後、Part ごとにストーリーの詳細を読み進める形式になっている。Part の先頭に Q があり、ポイントを絞って読み込むことができる。 ○プロジェクト型学習の You can do it! では「自己紹介」や「ドリームファミリーの紹介」など各学期の small goal として言語活動を行うことができる。World Tour では英語圏の国だけではなく、他国語にも触れられており国際理解について学ぶことができる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Unit ごとにまとめの活動の Goal が設定されている。Unit で学んだことを総動員して自己表現活動を行うことができる。 ○帯教材 Story Telling では Unit ごとにキーワードを使用しながらあらすじを紹介する活動を行うことができる。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各 Unit は「本文→Listen, Speak, Write→基本本文」で構成されており、新出言語材料を技能ごとに練習し定着を図っている。 ○Daily life ではスキット活動や読み取り、聞き取りなどそれぞれの技能に特化した活動を行うことができる。New words や Word Board を用いて新出語彙を分かりやすく提示している。Active Grammar では Grammar Hunt で教科書本文を繰り返し読み、既習の言語材料を探し出す活動が行われる。 ○各単元の Part. ごとに QR コードを掲載し教科書本文の音声、スライドアニメ、実写映像等を再生することができる。 ○帯教材の Let's talk! ではトピックを選んで話す活動を行うことができる。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Your Coach では「音読を楽しもう」や「辞書を使おう」など生徒がつまずきやすい箇所が Q and A 形式でまとめられている。 ○教科書本文のページに「①音と文字を確かめる」などスモールステップで本文を練習できるよう配慮されている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に教科書の構成と3年間を通しての到達目標が示されており、学習の見通しを生徒が立てやすくなっている。 ○教科書末に CAN-DO List があり、学習者の技能目標を確認することができる。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「本書で使われている主な記号」で4技能5領域の力が示されている。 ○1年生の Unit1~3 は吹き出しが使用されており、中学校1年生が読みやすくなるよう工夫されている。また SNS 形式の表示等が使われていて、生徒が場面を理解しやすいように工夫されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の初期は独自の手書き体が使用され、その後ブロック体やセリフ体が併用されている。2, 3年生ではブロック体やセリフ体が併用されている。 ○アクセントは1~3年生で各単語に付記されている。発音記号について1年生は巻末に、2, 3年生は各単語に併記されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○本文の内容は3年間ひと続きのストーリーになっており、登場人物の成長と共に生徒が共感しやすい内容になっている。 ○各 Unit は「扉→Part→Goal」で構成されている。扉でストーリーの大まかな内容をつかみ、Part でまとまりのある英文を読み、基本本文を確認し、Goal で学習した言語材料を繰り返し使用できるようになっている。

外国語科（英語）調査資料

書名	61
項目	『BLUE SKY English Course』 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○Get Ready (Read, Listen)で新出言語材料を提示し、Targetで詳細に触れ、PracticeとUseで発話練習と表現活動をし、Unitに関する長文理解があるという流れになっている。 ○Targetは基本文の提示だけではなく、既習の文を記載しながら対比してまとめている。 ○Let's talk / listen / read と、各技能を集中して強化するページが配置されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学期ごとにプロジェクト型学習が設定され、複数の技能の統合的な活動をとおして思考・判断・表現の力の育成が図れる構成となっている。 ○各 Part の Practice と Use では場面を意識して言語材料を使用している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ProjectではUnitごとに学んだことを総合的に活用する言語活動を行う。スピーチのProjectでは「読む→書く→話す」の流れで複数の技能をバランスよく活用できるようになっている。 ○Read & ThinkではUnitに関連した長めの英文を読み、内容を理解したり自分の考えを深めたりすることができるようになっている。 ○例の提示が充実しており、様々な学習レベルの生徒が自力学習に取り組むことができるようになっている。 <p><聞くこと、読むこと、話すこと [やりとり]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各 Part の Practice や Use では技能を変えながら新出言語材料を練習することができる。Useの最後の活動は「書く」活動になっており、言語材料の定着を目指している。 ○Let's～では、4技能に特化した言語活動を行うことができる。 ○QRコードによる、本文等の音声配信がある。
資 料	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「この教科書の使い方」というページが設けられていて、ゴールや使い方が明確になっている。 ○表紙裏に世界地図が表示され、教科書で学ぶ内容と世界とのつながりを意識させている。 ○巻末資料には Can-Do リストがあり、生徒が自分の学習達成目標を確認することができるようになっている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書本文に関する付与知識を Notes で示している。 ○Unitの構成として、「会話体の本文」→「資料文 (Read & Think)」→「自己表現 (Express Yourself)」と、テーマを少しずつ深めていき自己表現に発展させていく自然でスムーズな流れとなっている。 ○扉にUnitと単元を通して身に付けるべき達成目標が提示されている。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の題材に関する写真資料が単元の最終ページにまとめてあり興味をひきやすい。 ○ページ上部に活動の目標が色付きで提示されている。
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生の最後の Let's Read 以外は、小文字の a などを意識したフォントで構成されている。 ○発音記号は2年次から新出単語と合わせて記載されるが、アクセントについては1年より記載されている。
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○複数の Unit の後に Project があり、Unit で学んだ内容を総合的に使う場面が用意されている。 ○各 Part の流れが「Get Ready→Practice→Use」の流れで統一されており、生徒が学習しやすい工夫が施されている。 ○1年生の教科書に記載されているフォニックスの説明表現が初級学習者にわかりやすいよう工夫されている。

書名 項目	新訂 新しい道徳	2 東 書
特 内 容 色	<p><学習指導要領 特別の教科 道徳の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭で、内容項目に関連したテーマを示し、導入から本時のねらいに沿った話し合いが進むよう工夫がされている。各学年 35 教材(35 時間扱い分)とあわせて、付録 5 教材が用意されており、補充、深化の役割が果たせるよう工夫されている。 ○各教材に「つぶやき」コーナーを設置し、教材を読み、生徒が考え、思うことを書き込むことができるようになっている。自分の考えを基に話し合い活動や、言語活動が充実するよう工夫されている。 ○各学年巻頭に「話し合いの手引き」を配置し、話し合い活動を促す工夫がされている。また、2 時間扱いの問題解決的な学習が配置されている。問題提起から解決を図る流れの中で、道徳的価値について考えることができるよう工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「情報モラルと友情」では、近年、生徒たちの身近な問題であるメッセージアプリ内の人間関係や、SNS 上での写真や言葉の投稿についての問題を掲載している。 ○多様な生き方の人物を取り上げ、生徒が問題意識を持ち、広い視野から多面的・多角的に考え、自己を見つめ、生き方についての考えを深めるよう工夫されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年においても、発達の段階に応じて、「いじめ」と相対しながら「いのち」の大切さを、複数教材を用いたユニットが構成され、深く考える配慮がされている。 ○1 年生ではいじめの定義、2 年生では、いじめを構成する立場、3 年生では、自分ではいじめと考えていない場合など、成長を踏まえた教材が用意されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「ACTION」では、話し合いや体験的な活動について、必ず個人で考え、他者と対話し、最後に自分自身の考えを深めさせるよう工夫がされている。 ○冒頭にテーマが示され、記入欄「つぶやき」、ホワイトボード、心情円等を用い、道徳的価値について、問題解決的な話し合いがより活発になるよう工夫がされている。 <p><その他特記すべき教材について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本最初の医師、荻野吟子が紹介されている。埼玉県立滑川高校の書道部、「見沼の星村」「BONSAI」でも県内に係る教材が多く掲載されている。村上清加、荻野公介、小平菜緒と李相花のパラリンピック・オリンピック選手が取り上げられている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに、「考えよう・自分を見つめよう」という観点が絞られているため、生徒に考えさせたい、葛藤させたいポイントが明確になっている。 ○QR コードが示されている教材は、内容と関連する Web コンテンツが見られる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○心情円やホワイトボード用紙の収納、UD への配慮がされている。難解な表現は避けるように配慮されており、難解な言葉や必要な情報は脚注で必要に応じてイラストや写真を交え、解説されている。 ○教科書のサイズは AB 版を採用しており、目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークと考える観点が表示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材に「つぶやき」が設けられ、自分の思考や感じたことなどを可視化しながら学習を進めることができる。「いじめ」や「いのち」等のユニットを組むことで、大切なテーマに集中して学習に取り組めるよう配慮されている。また、問題解決的な学習、体験的な学習がより活発になるよう、ホワイトボード、心情円他、付録等が充実しており、道徳的価値の自覚を深める話し合いができるよう、工夫されている。 	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p>中学道徳 とびだそう未来へ</p>	<p>17</p> <p>教出</p>
<p>特 内 容 色</p>	<p><学習指導要領 特別の教科 道徳の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材に導入の発問、教材を通して考える発問「学びの道しるべ」が設けられている。また、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、学習のポイントが分かり易く示され、考えや心の変容を生徒自身が実感できるように工夫されている。 ○各学年の巻頭には、道徳の学びを振り返るページがあり、これからの学びを見通しながら目標を書け、巻末には、学びを振り返り記録するページがあり生徒が自ら振り返りこれからの課題や目標を見つけることができるよう工夫されている。 ○異なる立場からの考えを取り上げた教材や登場人物が判断を迫られる場面が中心となる教材など、「問題解決的な学習」に適した生徒の身近な内容を取り上げた教材を数多く掲載しており、物事を多面的・多角的に考え議論する工夫がされている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的な課題になっている「情報モラル・SNSの使い方」に重きを置いている。考えを深めるだけでなく、自分自身の判断や行動を振り返るよう工夫されている。 ○SDGs、安全防災、いじめ問題や性差別問題など、現代の課題をバランスよく扱っている。「人権について考える」というコラムではLGBTについても扱われている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階に応じ、いじめに関する教材は一年生が一番多くなっている。学年ごとの段階が考慮され、教材の内容が深く、人権をより意識する工夫がされている。 ○生徒の自己肯定感を高めることができる教材を積極的に掲載しており、生徒の心に寄り添い、自分らしさに自信がもてるように、勇気づけ向上心を持てる工夫がある。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年「やってみよう」が設けられており、役割演技をし、登場人物の気持ちになって体験することができる。道徳的価値をより深く議論する工夫がされている。 ○異なる立場からの考えを取り上げた教材や登場人物が判断を迫られる場面が中心となる教材があり、「自分事」として考えることができるよう工夫されている。 <p><その他特記すべき教材について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県にゆかりのある人物、渋沢栄一、荻野吟子、塙保己一の紹介と、それぞれの人物が大切にしてきたとされている言葉が掲載されている。また、スポーツやオリンピック・パラリンピックで活躍した人物も取り上げている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○近年、文化や歴史、スポーツなど様々な分野で活躍した人物を取り上げていて、生徒の興味・関心を引き出すことができるように工夫されている。 ○QRコードが示されている教材は、内容と関連する Web コンテンツが見られる。 	
<p>表 記 ・ 表 現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書のサイズは A4 版を採用しており、特別支援・UD への観点から、5行ごとに行番号がつけられている。「導入」や「学びの道しるべ」、キャラクターの「ふきだし」は文章をまとまりごとに改行し、読み取りやすくなるように工夫されている。 ○生徒の興味関心を喚起する漫画や絵本、グラフや地図から考える教材、写真、歌詞、新聞記事、生徒の作文から考える教材など、多種多様な教材が掲載されている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭の導入と教材末尾の「学びの道しるべ」で、生徒が考え深めるポイントをおさえ、道徳価値について考えることができるように工夫されている。また、教材がバランス良く取り入れられているため、様々な視点や角度から考えることができるよう工夫されている。様々な立場の考えを取り上げた教材や登場人物が判断を迫られる場面があり、「自分事」として考えることができるよう工夫されている。 	

書名 項目	道徳 きみがいちばんひかるとき	38 光村
内 容	<p><学習指導要領 特別の教科 道徳の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材を3つのシーズンに分け、さらにテーマごとにユニットを組んで学ぶことにより、道徳的諸価値を深く理解できるように工夫されている。ユニット内の教材はテーマに沿って関連性の深い内容項目が結びつくように配列してある。 ○教材末の「考えよう」では発問を2つとし、発問の意図を明確にしている。道徳的な問題を明らかにする問い、道徳的な価値についての理解や自覚を深める構成となっている。最後の「考えよう」でめあてに戻り、まとめられるように工夫している。 ○教材間に入っている、「深めたいむ」や「広げよう」は問題解決型の学習となっている。一つ目の「深めたいむ」は全学年いじめに関する学習となっている。最後の発問は自らを振り返られるような発問となっている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○SNSに関する題材後の「深めたいむ」は、情報モラルについて考える題材になっており、3年間を通して考えるように工夫されている。 ○スポーツに関する内容を扱い、異文化や障がいがある人々との共生について考える契機となることから、今後について考えられる教材やコラムを配置している。 <p><発達段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階と教材に合わせて、「あなたはどうか」「あなたならどうするか」という問いを配置し、主体的に考えることができるようになっている。 ○異文化を理解し、世界の人々と協力し合うこと、異文化共生や国際協力などを理解するために集中的に学べるようなユニットが全学年に配置してある。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材末の「考えよう」という発問は、自由な発想を妨げることがないような問いになっており、多面的・多角的な見方や考え方ができるようになっている。 ○教材末の「見方を変えて」という発問は、主人公の考えだけでなく、多面的・多角的な見方や考え方ができるように切り口を変えた発問が設定されている。 <p><その他特記すべき教材等について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末には日本の歴史的建造物、郷土玩具、偉人が紹介されている。1年生の教科書にある日本の郷土玩具の中に、埼玉県春日部市などに伝わる押絵羽子板が紹介されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材末に「見方を変えて」という設問の中で役割演技への取り組み方を提案しているものがある。演じる時や、観察する時に意識してほしいポイントが示してある。 ○題材名の下のQRコードから、授業を補足するコンテンツや資料にアクセスできる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年、1番目の教材が「道徳の授業を始めよう！」になっており、道徳的価値が記されている。内容項目を生徒が分かりやすいように簡潔に説明されており、マークと色で学習指導要領の四つの視点を分類している。 ○B5判を採用、生徒が扱いやすいように配慮している。漢字は、小学校配当外の常用漢字に全て振り仮名が付されている。難解な言葉には脚注で解説されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材を3つのシーズンに分け、さらにテーマごとにユニットを組んで学ぶことができるように設定されている。環境、共生、国際理解など現代的な課題は各学年5つ取り上げられている。問題解決型学習を「深めたいむ」で取り入れ、行動に移せるような発問が工夫されている。各教材末に「見方を変えて」「つなげよう」が設けられ、多面的・多角的に考え、最後に自己を振り返るよう工夫されている。 	

書名 項目	中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート	116 目文
特 内 容 色	<p><学習指導要領 特別の教科 道徳の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の学習の流れが可視化されている。主題名を導入として活用し、「考えてみよう」で議論しながらねらいに迫り、「自分に+1」で学んだことを今後にかかすような発問になっており、3ステップで深い学びにつながるように工夫している。 ○学びを深め、広げるために「プラットフォーム」「参考」「私の生き方」が教材間に設置されている。他教科やさまざまな活動とつなげるもの、教材の内容理解を助けるもの、生き方のヒントやメッセージが掲載されている。 ○いじめに関する題材は、1年生は身近な問題として捉えられるように、2年生は視野を広げられるように、3年生では今後の人生に生かせるように構成している。特に1年生は「いじめと向き合う」ユニットを年間で3回配置している。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○複数の教材とコラムを組み合わせたユニットを編成し、いじめを直接的、間接的に扱った題材が両方あり、いじめが起きやすい時期に合わせて複数回配置している。 ○インクルーシブ教育の視点からオリンピックやパラリンピックなどのスポーツに関わる内容、スポーツに携わる仕事に関する教材が全学年に入っている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○複数の教材やコラムがユニット化されている。特に「いじめと向き合う」「よりよい社会と私たち」は年間を通じて複数回学習するように配置されている。 ○「いのちの大切さ」「安全に生きる」「情報モラル」のテーマについて、各学年で発展的に学習できるように配置している。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○別冊で「道徳ノート」がついている。発問欄が空欄になり、発問を柔軟に設定できるようになった。自分の意見と友達の見解を対比でき、学びを積み重ねられる。 ○問題解決的な学習や体験的な学習に適した教材には「学習の進め方」のページがあり、授業の展開例が示され、主体的に考えることができるようになっている。 <p><その他特記すべき教材について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「よりよい社会と私たち」という新ユニットを作成し、生徒たちが主体的によりよい社会を創造していけるように「社会への参画」や「将来の生き方」に関わる教材・コラムを設置し、日常生活や将来に生かせる多彩な内容を扱っている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材名の下に登場人物を紹介することで、内容理解を助け、議論する時間を確保するように工夫してある。 ○QRコードから授業の導入などで役立つコンテンツにアクセスすることができる。 	
表 記・表 現	<ul style="list-style-type: none"> ○本冊と別冊の2分冊となっており、B5判を採用し、机上で扱いやすいように配慮されている。読み取りやすさへの配慮としてUDフォントを使用し、本文の割り付けは読み取りやすいようにまとまりで折り返すように工夫してある。 ○教材ごとに学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して明示され、目次はユニットのテーマが示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材末にある発問が2つとなっており、深い学びにつなげることができる。別冊で道徳ノートがついており、議論した内容を対比しやすく、学習した内容を記録としても残しやすいように工夫されている。「いじめと向き合う」「よりよい社会と私たち」というユニットを設定し、年間を通じて複数回学習するように配置している。いじめ問題に関しては、起こりやすい時期に学習するように配慮されている。 	

書名 項目	<h2 style="text-align: center;">新・中学生の道徳 明日への扉</h2>	224 学 研
特 内 容 色	<p><学習指導要領 特別の教科 道徳の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に掲載されている「考えを深める四つのステップ」では具体的な例を提示し、道徳的諸価値についての理解を深める工夫がされている。また、教材名と併せてキーワードを入れることで、生徒が興味を寄せ、考えたいようにしている。 ○全学年でユニット学習を設け、視点や内容項目の異なる教材を関連させ、多面的・多角的に考えることができるようにしている。また、多様な教材、教材末の設問や特設ページで人間としての生き方についての考えを深められるようになっている。 ○「深めよう」「クローズアップ」「クローズアッププラス」の三種類を設け、体験的な学習の展開、考え方の選択肢を増やす、内容項目の異なる関連情報を用いて視野をさらに広げるといった、日常につながる道徳性の育成を図れるように工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「命の教育」を重点テーマとし、「クローズアッププラス」で「生命の尊重」「いじめ防止」につながる3つのテーマを取り扱い、各学年で3教材掲載している。 ○「情報モラル」について発達段階に合わせて系統的に各学年2教材ずつ用意されており、そのうち1教材は、スマホを扱った教材でつながりをもたせる工夫がある。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「クローズアッププラス」では、「生命尊重」「いじめ防止」につながる自己肯定感・アンガーマネジメント・メンタルトレーニングの3テーマを取り入れている。 ○巻末に「学びの記録」のページがあり、学期ごとに心の変容の振り返りを促し、自分の成長を感じ、主体性や自尊感情を高められるように構成されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○主題名の扱いに配慮し、教科書にあえて主題名を表示しないことで、特定の価値観を押しつけず、生徒が道徳的価値を内面的に自覚するための工夫がされている。 ○「深めよう」では役割演技などの体験的な学習が展開できるようになっている。また、教材には「メモ」欄があり、自分の考えをまとめられるように工夫されている。 <p><その他特記すべき教材について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○寄居町立男衾中学校、埼玉の偉人尾高惇忠、マラソンの設楽悠太選手、パラリンピックメダリストの村岡桃佳選手など、埼玉に係る教材・人物が多く掲載されており、生徒の興味関心をさらに高められる工夫がされている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとにタイトル下にキーワードが記されており、生徒が授業に向き合うための配慮がなされている。また、教材に合った写真や挿絵が多く掲載されている。 ○QRコードが示されている教材には、内容と関連するWebコンテンツが見られる。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書のサイズはAB版を採用しており、目次と教材は学習指導要領の4つの視点の色とマークで示されている。ユニットのテーマは色付けされている。授業のしやすさを考えたページ構成、色やマーク、UDへの配慮がなされている。 ○すべての読み物が見開きで始まり、読みやすさに配慮されている。また、教材ごとに関連情報のページがあり、興味関心を持って取り組めるように工夫されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土(埼玉)に係る教材が数多く掲載されており、生徒の興味関心を高めることができる。主題名を表示しないことで生徒が主体的に課題を発見し、道徳的価値を自覚するための工夫がされている。さらに、「深めよう」などの特設ページによって、より学びが深まる工夫がされている。「いじめ防止」「情報モラル」など現代的な課題も多く扱っており、発達段階を考慮して、学年ごとに工夫されている。 	

書名 項目	中学生の道徳 中学生の道徳ノート	232 廣あかつき
特 内 容 色	<p><学習指導要領 特別の教科 道徳の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「本冊」と別冊で「道徳ノート」がついている。「本冊」では教材末の「考える・話し合う」で主体的な学習が促され、さらに「道徳ノート」で道徳的諸価値の解説が掲載されており、道徳的価値の理解を確かなものにできるように工夫されている。 ○教材ごとに考えるポイントを示し、教材に描かれた道徳的諸問題を様々な登場人物の視点で捉え、多面的・多角的な見方を促す問いで考えることができる。また、内容項目に沿った名言、表やグラフが生徒の価値理解を深められるよう工夫されている。 ○別冊の「道徳ノート」は授業内容に応じて自分の考えを記述することで、自分自身を見つめ、振り返ることができる。また、「心のしおり」を通して、自己の課題や目標を設定し、振り返りを促すことができるように工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ防止」に関わる教材、多面的・多角的に考えるための資料、特集ページを全学年に掲載し、4つの視点から考えを深められるように工夫されている。 ○「情報モラル」についての教材や特集ページを全学年に掲載し、発達段階に応じて、他の教育活動とも関連させ、生徒たちが自分事として深く考える工夫がされている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「自主、自立、自由と責任」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」「よりよく生きる喜び」を重点項目として、全学年を通してそれぞれ3教材ずつ掲載されている。 ○全学年に共通した登場人物を扱う教材「アイツ…」を配置し、生徒が学年の発達に応じて共感的に考えることができ、道徳的思考が深まる内容になっている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各教材末に「考える・話し合う」を設置し、本時のめあてを「学習の手がかり」として示している。また、複数の問いが載っており、深く考えさせる手がかりになっている。 ○「道徳ノート」には、「内容項目」と「学習の記録」のページをそれぞれ設け、資料集や話し合いの記録としての活用など、多様な学習に対応できるようにしている。 <p><その他特記すべき教材について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○オリンピック・パラリンピックに出場した選手に関する教材が各学年に掲載されており、栄光の裏にある彼らの努力や苦悩する姿などから、生徒が「人間として生きるすばらしさ」を感じ取れるように配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○「インターネット」のマークがある教材には、関わりのある補助資料を見ることができる Web コンテンツが用意されており、学びを広げ、深めることができる。 ○教材の場面にあった挿絵や写真や教材末の名言、図やグラフも多く掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○各教材の冒頭に道徳ノートの該当ページと内容項目を見分けるための4色に分かれたマークが示されており、玉の数と色で内容項目の視点を表し、四つの視点をわかりやすく分類・表示している。 ○教科書のサイズは AB 判を採用しており、紙面にゆとりをもたせている。また、未習の漢字については全てふりがなが付され、難解な言葉などは脚注で解説している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「本冊」・別冊「道徳ノート」の2冊構成となっている。「道徳ノート」では、自分の考えを書いて自己を見つめることができ、「心のしおり」を記入することで、心の変容を振り返ったり、成長を実感したりすることができる。各教材末にある「考える・話し合う」では、学習のめあてが提示され、学びを促すための問いにより、学習を深められる。また、Web コンテンツや各教材末の名言、特集ページが充実している。 	

書名 項目	道徳 中学校	233 日 科
特 内 容 色	<p><学習指導要領 特別の教科 道徳の目標に関わる工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分との関わりで問題と向き合い、考える経験を積み重ねていくことで授業のねらいを明確にする教材や、自己の判断基準となる価値観形成のために、道徳的諸価値の理解を基に多様な生き方と出会うことができる教材づくりが工夫されている。 ○巻末には振り返りのページが全学年にあり、生徒が問題意識をもって取り組み、自己を見つめ考えられるように構成されている。教材の末尾に物事の多面的・多角的な見方・考え方を身に付けられるようにするための設問が用意されている。 ○教材ごとに「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」を設け、自己の生き方を見つめ、人としてどう考え行動していくのかを考え、議論できるように工夫されている。また、「書いてみよう」「もっと知りたい」などのページも用意されており、道徳的課題を自分自身の問題として捉え、道徳性の育成が図れるように工夫されている。 <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめの問題」を正面から取り上げ、「いじめを許さない心」を育成する教材や、「LGBT」の問題を扱い、一人ひとりの個性・能力を考えさせる教材が掲載されている。 ○「情報モラル」については、インターネットコミュニケーションについて自分事として話し合うことができる教材や、SNSを通じた活動の特集ページも掲載されている。 <p><発達の段階に即しつつ、深く考えさせ、ねらいを達成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生は「自己理解」、2年生は「自己啓発」、3年生は「自己実現」について、道徳的問題に向き合わせ、キャリア教育との関連を意図した内容に配慮されている。 ○共通した登場人物を扱う教材を全学年に配置し、ストーリーに連続性をもたせ、悩みや葛藤を一緒に共有し、道徳的問題として考えられるように工夫されている。 <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材には自然と生徒が考えだす仕掛けがあり、教材末には、生徒の思考を揺さぶる問いがあり、一人一人の生徒が考え、議論しやすくなるように工夫されている。 ○「書いてみよう」「話してみよう」等の、自分の考えを記入するページが設けられており、それを基に「考える」「議論する」ことができるように工夫されている。 <p><その他特記すべき教材について></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全国の学校で歌われている合唱曲「旅立ちの日に」を生んだ秩父市立影森中学校を扱った教材が掲載されている。また、オリンピック・パラリンピックに出場した選手に関する教材が各学年に掲載されており、生徒の心を動かす内容となっている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○著名人、スポーツ選手、先人たち、現代的な課題を扱った教材が多く掲載されている。また、3年間同じ人物が登場するシリーズ教材も掲載されている。 ○教材に合った挿絵や多くの大小様々な写真があり、見やすく提示されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材ごとに学習指導要領の四つの視点で色分けされ、大きく明記されている。目次と索引は、項目ごとに分類され、色で示されている。目次と各教材の番号は、学習指導要領の内容項目のものと対応させており、見やすく分類されている。 ○漢字は当該学年までの配当漢字を使用し、中学校で学習する漢字や固有名詞はふりがなを付け、読み進めやすくしている。難解な言葉などは脚注で解説している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○郷土（埼玉）に係る教材が掲載されており、生徒の興味関心を高められる。教材末の「考え、話し合ってみよう そして、深めよう」では、生徒の主体的・対話的で深い学びを促すための手がかりとなる問いがあり、議論しやすく工夫されている。また、3年間同じ人物が登場するシリーズ教材や学年間の繋がりを重視し、他領域につながる教材など、発達段階を考慮した内容となっている点も大きな特長である。 	

参考資料

令和3年度使用中学校用教科用図書 調査資料（追加資料）

第2回第18採択地区教科用図書採択地区協議会において、社会科歴史的分野の教科用図書のうち、学び舎の教科用図書については、埼玉県教科用図書選定審議会の調査資料を用いて調査員長が報告をした。学び舎の教科用図書は、教科用図書調査研究調査員会の調査員長及び調査員には配布されず、調査員長及び調査員は、教科書展示会時に鋭意、調査研究を行い、後日、改めて第18採択地区教科用図書採択地区協議会の調査資料として配付し、採択委員から了承を得たためである。

なお、教育委員会の会議の中では、採択委員を含む全教育委員に対して、学び舎の教科用図書の調査研究を行っている。また、教科書展示会では、来場者は閲覧をしているため、学校の調査研究にも反映されている。

教育委員会定例会では、第18採択地区教科用図書採択地区協議会の調査資料として配布し、令和3年度使用中学校教科用図書の採択が行われている。

第18採択地区教科用図書採択地区協議会

社会科(歴史的分野)調査資料 作成の観点

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">『ともに学ぶ人間の歴史』</p> <p style="text-align: right;">発行者番号 229 発行者名 学び舎</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得できるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域の博物館で調べる」でインターネットや博物館を利用した調べ学習や体験者からの聞き取り・討論の方法等が紹介されており、知識及び技能が習得できる工夫が見られる。 ○章の扉のページで部の学習課題があり、章のあと・部のおわりに章をふりかえる・部の学習のまとめが設けられており学習内容を確実に身につけるための工夫が見られる。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「章の振り返り」では、歴史事象をさまざまに関連付けさせ、グループ活動等を通して意見交換をさせるなどして、学習を深められるように課題が設定されている。 ○「部の学習のまとめ」では、歴史的な見方・考え方を働かせて、各時代の特色を多面的・多角的に考察し、学びを深められるように工夫されている。 ○特設ページ「歴史を体験する」では、活動を通して考えたことを話し合ったり、発表したりする問いが設けられており、表現力を育成する工夫が見られる。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○特色のある図版と記述等から生徒の興味・関心を引き出し、疑問や問いが生まれるように工夫されている。 ○章の扉のページは、北極を中心とした地図を置くなど、テーマに沿って世界各地のようすを想像・予想できるようにしている。 <p><特記すべき教材や教科の特性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○埼玉県に関する教材として、秩父事件を取り上げている。
<p>資 料</p>	<p><学習意欲を喚起するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開きの上部に学習意欲を高めるための導入資料や本文と連動した資料が写真等で大きく掲載されている。 ○生徒の興味・関心を喚起する資料や写真が豊富に盛り込まれており、学習意欲を高める工夫がされている。 <p><学習効果を高めるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ページごとに写真・地図・系図・統計・組織のしくみ等が掲載されている。資料には、出典・所蔵が掲載されている。 ○歴史の舞台に焦点を当てるため、「フォーカス」を設定し、より詳しい説明を示し、生徒の学習意欲を喚起する工夫が見られる。 <p><レイアウトの工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○側注・グラフ・資料等から、歴史的な事象や課題について多面的・多角的に考えられるように工夫されている。 ○章ごとにテーマの色を設定し、生徒が見通しをもって学習できるようにしている。
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○見開きの見出しは太字で表記され、生徒の関心を引き出すタイトルと見通しをもつための学習課題が提示されている。 ○巻末の年表では、世界の出来事と関連付けて、日本の社会・政治・経済の動きと日本の文化・宗教が掲載されている。 ○本文は、敬体で記され、学年に応じた表現や漢字が使用されている。資料には、見開きで通し番号が付けられている。
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○教科書の紙面は、A判が採用されており、章の扉のページには部の学習課題を示し、章のあと・部のおわりに章をふりかえる・部の学習のまとめが設けられ、学習内容を確実に身につけるための工夫が見られる。 ○生徒の主体的な学びの実現を目指し、興味・関心を引き出す図版や記述の工夫がされている。女性や子ども等、さまざまな分野・階級の人びとの生活を学ぶことで、誰もが個人として尊重し合える社会について考えを深められるように配慮されている。

